

事 業 報 告 書

決 算 報 告 書

2016年度

第29期

自2016年4月 1日

至2017年3月31日

あしなが育英会

2016年度事業報告

事業報告概要

2016年度は1,723人を奨学生に採用し、23億3,224万5,000円を貸与した。これにより、1988年の本会発足以来、29年間に累計42,326人を採用し、434億4,166万5,000円を貸与した。

奨学生採用数は2008年度の2,250人をピークに漸減傾向が続いている。この傾向の要因は高校奨学生採用数の減少であるが、これは国による授業料の無償化や給付奨学金制度の新設等により、本会の高校奨学金の需要が低まったことによるものと考えられる。一方、大学及び専修・各種学校奨学生は増加傾向にあり、特に専修・各種学校生の増加が著しい。

奨学金の返還については、返還者数28,008人、回収額約16億1,000万円で、返還率は昨年同様の約93%を維持したが、返還率は返還猶予者分を除いて計算していることから、依然として、返還者の生活状況が向上しているとは判断し難い。

2016年4月14日以降連続的に発生した熊本地震による被災者救援対応として、東日本大震災時の実施例にならい2種類の制度を設けて緊急に送金した。一つは、地震及びその関連で保護者を亡くした又は保護者が重度の障害を負った0歳以上20歳未満の子どもに対する「地震遺児特別給付一時金250万円」制度で、2016年度末までに3世帯5人に対し総額1,250万円を給付した。もう一つは、家屋が被災した奨学生の家庭に対する「住宅被害特別給付一時金（半壊以上100万円、一部損壊50万円）」制度で、全半壊2世帯、一部損壊17世帯、計19世帯に総額1,050万円を給付した。

「志高く WORK HARD」を統一テーマに掲げ、全国8会場で開催した「高校奨学生のつどい」には884人が参加し、大学・専門・各種学校奨学生495人がリーダー等を務めた。また、世界中から集まったインターン生及び日本に留学中の海外遺児学生に加え、2016年度は世界各地であしなが運動を展開するスチューデント・アンバサダーや日本国内の一般の留学生らも参加し、国際的なつどいを作り上げた。最終日のアンケートでは、高校生の94%が「満足」と回答した（前年度93%）。また、山梨県西湖の研修施設で開催した「大学・専修・各種学校奨学生のつどい」には対象者281人、日本人学生スタッフ69人、外国人学生スタッフ14人、役職員等48人の計412人が参加し、最終日のアンケートによる参加者の満足度は94%だった（前年度88%）。

東京の「あしなが心塾」と神戸の「虹の心塾」では、海外研修、心塾講座、読書感想文の添削指導、インターン生による個別英会話レッスン、TOEIC-IP試験などを通して、塾生の国際性や「人間力」醸成のために様々なカリキュラムを実施した。また、海外から日本に留学している塾生に対しては日本語講座を開設し、それぞれの日本語力向上を促した。

「あしながインターンシップ・プログラム」では、世界 15 か国 30 大学から総勢 70 人が日本、ウガンダ、セネガルのプログラムに分かれて参加した。日本では 29 人を 2 期にわたり 4 チームに分けて 10 週間のインターンシップを実施した。心塾での英語指導・異文化交流を行った「学生支援班」、心塾や募金の紹介動画やポスターなどの作成を担当した「メディア班」、多くの書類を英・仏語へ翻訳した「翻訳班」、各国の募金事例の調査や街頭募金への留学生参加を企画した「募金調査班」がそれぞれの得意分野を生かした活動を展開した。なお、ウガンダでは 26 人、セネガルでは 15 人が、「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想」第 3 期生の留学のための受験指導やリーダー育成のカリキュラムを実施した。

日本の遺児の海外研修プログラムでは、大学奨学生 23 人を海外留学研修生として 7 か国 9 都市に派遣した。テロの危険のある都市への立ち入りは極力制限した。また、小中学生に対しては、2016 年度の新たな取り組みとして、小学 4 年生から中学 3 年生 64 人を対象に 3 月 25 日から 10 日間、フィリピン西ビサヤ州イロイロ市で「あしながジュニア・イングリッシュ・キャンプ」を開催した。青少年の育成とコミュニティ支援を行っている現地 NGO と連携し、子どもたち同士の国際交流をプログラムの柱とし、英語を使った様々なアクティビティを実施した。

遺児の心のケアを担う「あしながレインボーハウス」、「神戸レインボーハウス」、「東北レインボーハウス」は連携して、「全国小中学生遺児のつどい」を開催し、病気・災害・自死遺児等と、全国に避難している東日本大震災津波遺児に心のケアを施すと共に人間としての成長を促した。また、活動を支えるボランティアを養成するための「ファシリテーター養成講座」を開催した。特筆すべきは、神戸レインボーハウスで開催した「追悼と交流のつどい」に、阪神大震災遺児家庭 30 人、東北の震災遺児家庭 16 人が参加し、午前中は追悼セレモニー、午後は小グループに分かれて震災体験やその後の生活や将来のことなどについて話し合い、心を開いて交流したことである。

東日本大震災津波遺児支援においては、震災遺児や保護者が「ひとりじゃない」と感じて前向きに生きる希望や笑顔を取り戻すために、仙台、石巻、陸前高田の各レインボーハウス活動では、2015 年に定着した日帰りの「ワンデイプログラム」の他に「宿泊プログラム」を取り入れるなど、心のケアプログラムの充実をめざした。また、震災遺児家庭同士の出会いと交流を継続的に広げるために、ニュースレター「レインボーハウスだより」を発行し、情報提供を行いつつ、相談事には手紙や電話で対応した。さらに、来館できない家庭を対象に 130 件の家庭訪問を実施した。夏休みなどには、震災遺児を米国と豪州での短期海外留学に送り出す一方、外国人インターン生との交流も行った。しかし、震災から 6 年が経過し、遺児らのニーズが年齢や家庭の経済状況、学習環境、在住するコミュニティの復興状況によって個別的であることから、年齢別のサポートプログラムの必要性が高まっている。

「100 年構想」事業を支える賢人達人は、2016 年度に新しく 17 人に就任いただき、2017 年 3 月末までに総勢 86 人（34 か国）となった。「100 年構想」1 期生の卒業が間近となっている今、彼らの就職や今後の進路に関してサポートやアドバイスをいただけるアフリカ諸国の賢人達人の存在

が重要度を増しているため、2016年度は特にアフリカ諸国の賢人達人獲得に務め、結果として10人以上の、それぞれの分野で世界的に著名であり人格的にも尊敬を集める素晴らしい方々に就任いただくことができた。2017年2月28日には、2015年6月に米国のワシントンD.C.で開催した第1回に続き、第2回総会を初めて本拠地である東京において開催した。第1回の約2倍となる35人もの方が18か国から参加していただき、「100年構想」事業に対して、期待をはるかに上回る実に有効かつ多種多様なご提案をいただくことができた。また、総会を通じて本会と賢人達人メンバーとの信頼関係が深まったことにより、総会後も引き続き様々なご提案やご紹介をいただく等の交流が活発になり、様々な相乗効果を生んでいる。

「100年構想」生については、一期生10人、二期生26人に続き、2016年度は35か国を対象に募集を行い、三期生として32か国から32人を採用した。ウガンダ、セネガルでの勉強合宿を実施し、学業面でのスコア向上のみならず、課題解決活動やボランティア活動などもプログラムに採り入れた。

「100年構想」事業の海外活動拠点の一つである米国法人「ASHINAGA. INC」では、現地職員2人を採用。現地の大学事情に詳しい専門家のアドバイスを受けながら、大学との関係構築及び学生支援を大きな柱に活動を行い、これまでにカナダを含め北米で16大学16人が入学を果たした。

「あしながセネガル事務所」は仮登録団体として活動してきたが、2016年12月にセネガル政府から最終承認が下り、改めて現地非営利団体「あしながセネガル」としての活動を開始した。フランス語圏第3期生の募集・採用活動の対象国は、昨年度の9か国から13か国に拡大した。また、2016年度から新たにセネガル現地での奨学金事業を二つ開始した。一つは高校を卒業した学生対象とした奨学金(高等教育奨学金)、もう一つは小学生を対象とした奨学金(初等教育奨学金)である。高等教育奨学生に2人、初等教育奨学生に10人を採用した。

「あしながUK」は2017年2月に正式に団体登録された。現地職員3人と本部職員1人で、現在マンチェスター大学、SOAS、ブリストル大学をはじめ10大学14人の学生を支援・指導した。

「あしながフランス」は2016年12月にNPOとして正式に登録された。現地職員2人とフルタイムインターン1人で、大学支援プロフェッショナルの政府機関キャンパス・フランスと連携提携活動し、フランスの大学生5人、オランダの大学生1人を支援・指導している。

「あしながウガンダ」のレインボーハウス(遺児の心のケアと寺子屋教室)では、2016年度、中・高生を対象とした奨学金を新たに設立。中1から高2まで27人を採用した。既存のリーダー育成奨学金では、小学校卒業試験で際立って好成绩を修めた1人を採用した。同奨学金における卒業生では、高校卒業試験を受けた4人のうち2人が国内トップ成績200人に入り、全国紙に名前が載る快挙となった。また、「あしなが心塾」での「100年構想」生に対する渡航前合宿には、2期生24人とウガンダの日本留学候補生と合わせて28人が参加し、インターン生7人が指導に当たった。

海外遺児の日本留学支援は2006年度から開始したが、2016年度までに68人を受け入れた。留学生らは、母国や地域発展に寄与するリーダーを目指し、各々の大学や高校で学びかつ切磋琢磨している。留学先は、早稲田大、上智大、明治大、関西学院大、同志社大、関西大、広島大に加

え、2016年度からは、筑波大、立命館大、山梨学院大も加わり、ウガンダ以外にもマラウイ、ソマリア、ザンビア、ケニアなどのアフリカ諸国からも留学生を受け入れた。

2015年度1年間の留学生別科を修了したベトナムからの留学生は、関西大学経済学部(四年制)に合格した。彼らは、卒業後、日本企業に就職する者、大学院に進学する者と様々だが、将来は、母国の発展のために日本留学の経験を活かしてくれることだろう。また、2014年度より行っている仙台育英学園高等学校への留学は、2016年度、セネガル、ウガンダから2人が入学し、日本の大学への進学を目指し努力している。

高校留学生第1期生2人は、2017年3月に高校を卒業し、大学へ進学した。学生の選択肢を増やすために、新たな大学・高校との協定を増やすアプローチも積極的に行い、東京国際大や同志社女子短期大などとも協定を締結した。

コラボ・コンサート「世界がわが家」公演を2016年8月にウガンダのカンパラ市ンデレ・センターで行った。1,000人収容の野外劇場を約2,000人もの観客が埋め尽くし大成功をおさめた。公演前後のレセプションには、在ウガンダの主要各国大使はじめ、企業・団体・メディアからも参集いただき、「100年構想」に応援いただいた。また、勉強合宿中の「100年構想」生等が「こころざし」について力強くスピーチした。全く異なる環境に育つ若者たち(震災遺児や被災者による和太鼓演奏・米ヴァッサー大学生のコーラス、ウガンダエイズ遺児の歌と踊り)の3か国コラボは、2014年3月の仙台・東京公演から始まり、2015年6月米国NY、ワシントンD.C.、東京を経て、2016年8月、あしながウガンダ寺子屋キッズの故郷ウガンダで凱旋公演を終えた。これに引き続き、ウガンダキッズ達はケニアで開催された「TICAD VI」の日本政府主催のレセプションに招待され、躍動感あふれる素晴らしいダンスを披露した。さらに、玉井会長が安倍総理から列席した全アフリカ元首等に紹介され、「100年構想」について説明する機会を得たことが、「100年構想」進展に大きなはずみをつけた。

2016年度の寄付総額は42億952万4,053円で、2015年度比6%の減少となった。目的を限定しない本会の活動全般に対する「一般寄付」については、遺贈が増加したことにより、2016年度は15億2,360万8,106円と、前年の9億9,989万6,896円に比して52%増加となった。寄付件数は34万6,133件で2015年度比4%の減少となった。1988年からの寄付累計額は724億5,032万1,029円(633万5,623件)である。

継続寄付をいただく「あしながさん寄付」は、2016年度中に新たに1,342人の申込みをいただいた。あしなが学生募金による寄付減少も影響し、寄付額は12億5,800万9,042円で21%の減少だった。寄付件数は24万6,488件で4.1%の減少となった。

神戸レインボーハウスの建物の維持管理費、運営資金を継続的に支援する「虹のかけはし会員」に新たに289人の申込みがあった。寄付額は大口の寄付があり1億1,953万6,206円となったが、前年比16%の減少だった。寄付件数は4万3,860件で3.2%減少した。

2014年度に設置した「あしなが東日本大震災遺児支援募金」への2016年度の寄付額は4億7,006万8,046円(3万2,578件)で、特別一時金などに充てた「東日本大地震・津波遺児募金」を合わせた2011年3月からの累計は81億5,052万1,070円(36万5,965件)となった。

1. 奨学生の採用と奨学金の貸与等

(1) 奨学生採用者数と貸与額

2016年度は1,723人を採用し、23億3,224万5,000円を貸与した。これにより、1988年の本会発足以来、29年間に累計42,326人を採用し434億4,166万5,000円の奨学金を貸与した。

奨学金の貸与月額は高校生25,000円(国公立)又は30,000円(私立)、大学生40,000円(一般)又は50,000円(特別)、専修・各種学校生40,000円、大学院生80,000円、「オンコセラピー・サイエンス」及び「草間巖・ケイ」奨学生は25,000円である。また、入学一時金の額は、私立高校生30万円、私立大学生40万円。高校奨学生3年生対象の進学仕度一時金の額は40万円である。

(2) 「オンコセラピー・サイエンス」奨学金の貸与と給付

がん遺伝子を解析、治療薬開発に取り組む企業の上場に伴い、その関係者より2003年度と2009年度に合計5億円の寄付があり、寄付の趣旨に添って本会大学奨学生の中から該当奨学生を選考し、月額50,000円を半額給付・半額貸与する制度が2004年度からスタートした。2012年度までの採用で基金を使い終わるため、2016年度も新規採用を実施せず、2015年度からの継続者7人に対し給付と貸与をおこなった。給付額は210万円(累計額2億4,157万5,000円)、貸与額も同額の210万円(累計額2億4,157万5,000円)となった。

(3) 「草間巖・ケイ」奨学金の貸与と給付

2015年12月に草間ケイ様から1億9,781万5,183円の遺贈によるご寄付があり、故人草間巖様のご遺志により、「オンコセラピー・サイエンス奨学金」制度と同様に月額50,000円を半額給付・半額貸与する「草間巖・ケイ奨学金」を2016年度に新設し、7年に亘り毎年11人程度を採用し、10年後の2025年度に終了することとなった。初年度の2016年度は、大学奨学生12人、専修・各種学校奨学生4人、大学院奨学生1人の計17人に対し給付と貸与をおこなった。給付額は510万円、貸与額も同額の510万円となった。

(4) 採用者数と貸与額

2016年度における制度別の採用者数と貸与額は次の通り。()内は申請者数である。

	継続者	予約採用	在学採用	合計	貸与額(千円)
高等学校	2,011	752(884)	248(261)	3,011	1,174,015
大学	1,076	322(508)	137(166)	1,535	889,210
専修各種	277	160(207)	97(98)	534	250,000
大学院	13	0	7(7)	20	19,020
合計	3,377	1,234(1,599)	489(532)	5,100	2,332,245

※ 貸与額には入学一時金、進学仕度一時金、「オンコセラピー・サイエンス」奨学貸与金、「草間巖・ケイ」奨学金を含む。

- ※ 合計人数は、留年・休学等による奨学金送金停止者を除く。
- ※ 予約採用者とは2015年度に予約申請した進学予定者で2016年度に正式採用された者。
- ※ 在学採用者とは2016年度に在学申請し、正式採用された者。

(5) 奨学生の異動状況

2016年度における奨学生の異動状況は次のとおりである。

	辞退	退学	期間短縮	死亡	合計	休学	復学
高等学校	75	51	6	1	133	12	3
大学	24	39	10	0	73	17	15
専修・各種学校	7	34	0	0	41	10	0
大学院	0	0	0	0	0	0	0
合計	106	124	16	1	247	39	18

(6) 私立高等学校および私立大学入学一時金、進学仕度一時金の貸与状況

私立高校入学一時金は237人に30万円を貸与し、私立大学入学一時金は152人に40万円を貸与した。また、大学等への進学を予定している高校奨学生3年生対象の「進学仕度一時金」は370人に40万円を貸与した。2016年度末の都道府県・制度別奨学生数は別表に掲げる「奨学生現況表」(25頁)のとおりである。なお、現況表の下欄「休停止」の人数は休学者と原級留置による奨学金停止者の合計を示す。

(7) 熊本地震被災者対応の状況

2016年4月14日以降連続的に発生した熊本地震による被災者救援対応として、2種類の制度を緊急に設けて送金した。

- ① 地震およびその関連で保護者を亡くした、又は保護者が重度の障害を負った0歳から20歳未満の子どもに対する「地震遺児特別給付一時金(250万円)」制度により、3世帯5人に対し総額1,250万円を給付した。
- ② 家屋が被災した奨学生の家庭に対する「住宅被害特別給付一時金(半壊以上100万円、一部損壊50万円)」制度により、全半壊2世帯、一部損壊17世帯、合計19世帯に総額1,050万円を給付した。

(8) 2017年度の奨学生予約申請状況

① 高等学校奨学生の予約申請状況

2017年4月に高等学校に進学予定の中学3年生を対象に、高校奨学生の予約募集をおこなったところ、632人から申請があり、辞退申出のあった18人を除いた614人を2017年度奨学生として予約決定した。

② 大学奨学生の予約申請状況

2017年4月に大学進学予定者を対象に大学奨学生の予約募集をおこなったところ425人から申請があり、書類審査の結果422人を可とし、辞退・当日欠席者を除いた

325 人に対し面接試験を実施し、受験後に辞退した 2 人を除いた 323 人を予約決定した。これにより 2017 年度大学奨学生予約決定者数は、試験免除者(前年の奨学生採用試験に合格したが浪人生となった者)25 人を加え 348 人となった。

③ 専修・各種学校奨学生の予約申請状況

2017 年 4 月に専修・各種学校進学予定者を対象に、専修・各種学校奨学生の予約募集をおこなったところ 179 人から申請があり、書類審査の結果、全員を 2017 年度奨学生として予約決定した。

2. 奨学金の返還

(1) 2016 年度実績

① 返還者数	28,008 人(2017 年 3 月 31 日現在)
② 回収額	年度回収額約 16 億 1,000 万円 累計約 183 億円
③ 返還猶予決定者数	5,044 件(のべ件数) うち約 71%の猶予理由は生活困窮
④ 返還完了者数	1,208 件
⑤ 返還免除者数	11 件 11,340,000 円
⑥ 債権放棄者数	31 件 27,038,070 円
⑦ 個人再生債権一部放棄数	5 件 2,887,999 円

(2) 借用証書回収

以前からの課題である「借用証書未回収者ゼロ」を実施して、2017 年 3 月卒業者約 1,550 人の借用証書回収を行った。今回から返還課だけでなく奨学課にも回収を依頼したところ、奨学課で持っている貸与中の保護者や本人、在籍する学校との連携ノウハウが奏功し、奨学課担当分は一人残らず回収できた。また返還課担当分にて一名の未回収者を残した。本人保護者と連絡が取れず、在籍の専門学校にもコンタクトしたが不発に終わった。

(3) 長期滞納者対応

長期滞納者には弁護士による催告書(内容証明)を送付し、それでも手続に応じない返還者には、裁判所による支払督促を実施した。

(4) 電話インタビュー

2016 年 8 月から 2017 年 2 月にかけて、返還者 50 名に電話でのインタビューを行った。その主目的は長期返還者の現状や返還に関する意識、今後の返還に対する不安などを確認し、今後の返還困難者の救済に活用することであり、通常の間合せて返還者と話す事務的な内容とは一線を画したナラティブ・アプローチを用いて、返還者の方からすすんで自分の状況を物語ってくれるように導きながら話をすすめ、効果を挙げた。

(5) 返還率向上対策

返還率は昨年度同様の約 93%となった。数値だけを取り上げると好調に見えるが、返還者

の生活状況が向上しているとは判断しにくい。その理由は「返還率」とは当初予定している要返還額が返還猶予の申し出により減額され、回収額との差を小さくなることでポイントが上がる数値にすぎないからである。また、その数値を上げるための返還猶予願に関しても督促をしないと提出しない(できない)返還者も多く苦慮している。

今後は返還が困難な生活困窮者を取り巻く環境を理解し、回収・猶予・返還免除等の良策を提案できるよう、返還者の生活状況の把握を進めたい。

3. 教育事業

(1) 高校奨学生をつどいの開催

2016年度は、全国8会場の国立青少年交流の家において、8月中にそれぞれ3泊4日の日程で開催した。高校生884人(出席率30%)、大学・専門・各種学校奨学生リーダー等495人が参加した。「つどい」のテーマは前年と同様に全会場統一で「志高く WORK HARD」とし、どんな時代でも生き抜ける力を身につけることの大切さを伝えた。志や目標を高く持ち続け、本気で具体的にWORK HARD(一生懸命に勉強)していくことを一人ひとりが決意できるよう、グループワークや語り合い、進路相談などを実施した。

世界中から集まったインターン生、日本に留学中の遺児学生に加え、今回からは世界各地であしなが運動を展開するスチューデント・アンバサダーや日本国内の一般の留学生らも参加し、国際的な「つどい」を作り上げた。最終日のアンケートでは、高校生の参加満足度は94%となった(前年度93%)。

(2) 大学および専修・各種学校奨学生をつどいの開催

2016年度は前年度同様、「ホテル光風閣くわるび」(山梨県西湖)を会場に、9月3日から7日の4泊5日の日程で開催した。大学・専修・各種学校の2016年度採用奨学生281人(出席率40.8%)、学生スタッフ83人(日本人69人、外国人14人)、役職員等48人の計412人が参加した。高校奨学生をつどいと同様に「志高く WORK HARD」をテーマに掲げ、「国際感覚の初歩」、「答えのない問いに答えを求める姿勢」、「新しいことにチャレンジする姿勢」を身につけるべく、外国人との交流プログラム、ソフトバンクグループ株式会社で執行役員を務める青野史寛氏、関西学院大学の学長として教育改革を牽引する村田治氏による遺児OB特別講義、学生同士のグループワーク等を行った。最終日のアンケートでは、2016年度採用奨学生の参加満足度は94%となった(前年度88%)。

(3) 「あしなが心塾」活動

東京の「あしなが心塾」の2016年度の新入塾生は日本人学生13人であった。2006年2月に開塾して以来、入塾生の累計は376人となった。2016年度に、あしなが育英会の制度を利用し、フィリピン、ベトナム、トルコへの海外研修に参加した塾生は5人、大学の制度を利用し、中国、ドイツへの海外留学に参加した塾生は2人で、計7人が休塾した。

2017年2月12日に第13回卒塾式を行い、日本人学生10人(短大生1人含む)留学生2人(大学は同年9月卒業予定)が卒塾し、卒塾生の累計は149人となった。

心塾生対象のあしなが心塾講座は3回実施した。入塾記念講演には、あしなが育英会副会長で関西学院大学学長の村田治氏から世界の格差と大学のグローバル化について経済学的見地からお話しいただいた。読む習慣と考える力を養う読書感想文の添削指導は、新たに立教大学の阿部善彦先生に1年生担当として加わっていただいた。菊地良一先生（元NHKプロデューサー）に2、4年生、岩橋豊先生（下野新聞監査役）に3年生を担当していただいた。塾生自身が推薦本について5分でスピーチする「ビブリオバトル」を開催した。1年生を対象に高橋俊一先生（元朝日新聞記者）による文章作法講座を実施した。

国際性を養い言語能力を高めるため、6月からの約半年間、世界各国から来日したインターン生による個別英会話レッスンを継続的に行い、TOEIC-IP試験を5月と1月に計2回実施した。また、新たな試みとして日頃の英語学習の成果を披露する英語スピーチコンテストを実施し、2月に米国で短期研修（ニューヨーク、プリンストン、ワシントンD.C.）を行い、3人が派遣された。さらに、アフリカ遺児支援100年構想についての理解を深めるため、7人（虹の心塾生と合同派遣）を11月に約1週間の日程でウガンダへ派遣した。

(4) 「神戸虹の心塾」活動

神戸「虹の心塾」の2016年度の入塾生は日本人学生7人、海外遺児留学生4人の計11人だった。海外遺児留学生は、ウガンダから2人、インドネシアから1人、マラウイから1人を迎えた。1993年3月に第1期生16人で開塾以来、入塾生は累計218人となった。また、2016年度はベトナムでの1年間海外研修のため塾生1人が休塾した。

2017年2月25日に第18回卒塾式を行い、日本人1人、ウガンダ留学生3人が卒塾し、卒塾生の累計は108人となった。2016年度の卒塾生の進路は、就職が3人、大学院への進学が1人であった。

2016年度は前年度から開始したコンセプト「世界で生きる考動人」を引き継ぎ、4年で完結型のカリキュラムを発展させるように努めた。日本人塾生に対してはTOEIC講座を、留学で外国から来た塾生に対しては日本語講座を準備し、それぞれの語学力向上を促した。また、学年ごとのプログラムとして、1年生には読書と外部講師による講座を行い、幅広い分野の知識を得てもらった。2年生は課外活動へ80時間の参加を義務付け、それぞれ自分の興味に向けた活動を行わせた。

(5) インターンシップ・プログラム

2016年度は世界15か国30大学から総勢70人が日本、ウガンダ、セネガルのインターンシップ・プログラムに参加。日本へは29人が、6月から12月の間に、2期に亘って4チームに分かれ、10週間のインターンシップを実施した。心塾での英語指導・異文化交流を行った「学生支援班」、心塾や募金の紹介動画やポスターなどの作成を担当した「メディア班」、多くの書類を英・仏語へ翻訳した「翻訳班」、各国の募金事例の調査や街頭募金への留学生参加を企画した「募金調査班」など、それぞれの得意分野を生かした活動を展開した。

また、東日本大震災や東北の現状を学び、東北大学の学生やレインボーハウスを訪れた地元学生や震災遺児と交流した「東北プログラム」、遺児学生たちの国際性を広げる役割を担い、お互いの将来や夢を語り合った「高校生・大学生のつどい」、学生募金やケアプログラムなど

にも参加した。

ウガンダでは 26 人、セネガルでは 15 人がアフリカ遺児学生を対象に、海外留学のための受験指導やサポート、リーダー育成のカリキュラムを実施し、100 年構想 3 期生の進学支援をおこなった。

2013 年から始まったこのインターンシップ・プログラムでは、累計 23 か国 64 大学から 284 人の海外学生らが参加した (2017 年 3 月 31 日現在)。

(6) 学業成績と生活状況の把握

奨学生の就学状況や生活状況等の現状を把握するために、全奨学生約 5,000 人に対し、2016 年度末に「学業成績表」と「生活状況報告書」の提出を求めた。生活状況報告書では、進路希望や高卒で就職する理由なども把握した。

(7) 日本遺児学生の海外 1 年研修と短期海外研修プログラム

2016 年度は大学奨学生 23 人を海外留学研修生として 7 か国 9 都市に派遣した。派遣先と人数はウガンダ 4 人、トルコ 5 人、中国 1 人、ベトナム 4 人 (ホーチミン 2 人、ダナン 2 人)、フィリピン 7 人 (マニラ 5 人、ケソン 2 人)、インドネシア 2 人であった。イスラム過激派による爆弾テロが頻発したトルコでは、前年度に引き続き研修生に対して、イスタンブールやアンカラなどテロの危険がある都市への立ち入りを極力制限した。

2004 年から続いたメキシコ研修は、近年国内の治安が悪化し、また、ビザ取得の手続きが煩雑化し費用も高騰したため、受け入れ先の日本メキシコ学院と協議した結果、2016 年度から廃止となった。また、台湾研修も受け入れ団体の事情で 1 年間派遣を中断した。メキシコに代わる新たな研修先としてインドネシア西ジャワ州チルボンにあるインバダ外国語大学、タンザニア共和国のスポーツ省野球・ソフトボール連盟と交渉を行い、2017 年度から本会研修生を派遣することで合意した。23 人の研修生は 2017 年 2 月に全員無事帰国して報告会をおこなった。

そのほかに短期海外研修プログラムとして、南加日系商工会議所主催の LA 研修に 2 人、ライオンズクラブ主催の YCE 研修に 4 人 (タイ 1 人、カリフォルニア 3 人) を派遣した。

(8) 小中学生の児童生徒に対する教育支援

2016 年度の新たな取り組みとして、小学 4 年生から中学 3 年生 64 人を対象に、3 月 25 日から 4 月 3 日の 10 日間、フィリピン国、西ビサヤ州イロイロ市において、「あしながジュニア・イングリッシュ・キャンプ」を開催した。今回のプログラムは、英会話学習を核としながら、様々な異文化体験を通して、コミュニケーションすることや海外への興味を醸成し、さらに多くのことを学びたいという学習意欲を高めることを目的として実施した。

青少年の育成とコミュニティ支援を行っている現地 NGO と連携し、子どもたち同士の国際交流をプログラムの柱とした。午前中は英語のレッスンを受け、午後は実践として英語を使った様々なアクティビティ・プログラムを実施した。

現地滞在期間は実質 1 週間ほどと短い期間ではあったが、参加した子どもたちの満足度は高く、将来グローバルに生きていく上でも大きな学びの機会となった。

4. 心のケア事業

「あしながレインボーハウス」と「神戸レインボーハウス」による「心のケア活動」は、東日本大震災遺児の心のケアを担っている東北事務所の活動を応援しつつ、また、運営人員の不足を補うため相互に連携しながら、全国の病気・災害・自死遺児等の小中学生とその保護者を対象に「心のケアと成長」のために、従来からの原則に沿って実施した。

(1) あしながレインボーハウス（東京）の心のケア活動

あしながレインボーハウスでは、神戸レインボーハウスと連携し「全国小中学生遺児のつどい」を開催し、病気・災害・自死遺児等と、全国に避難している東日本大震災津波遺児の心のケアを施すと共に人間としての成長を促した。また、東北事務所と連携し、3か所のレインボーハウス（仙台市・石巻市・陸前高田市）で開催した震災遺児のケアプログラムをサポートした。

上記の活動を支えるボランティア（ファシリテーター）を養成するため、あしながレインボーハウスで「ファシリテーター養成講座」を開催した。また、神戸レインボーハウスや東北各地で開催する同養成講座をサポートした。

① 全国小中学生遺児のつどい

「全国小中学生遺児のつどい」は、2泊3日の「スリーデイ」を6回、1泊2日の「ツーデイ」2回の計8回実施した。のべ参加人数は、遺児256人、保護者93人、計349人だった。ファシリテーターの参加者はのべ182人、ファシリテーター以外のボランティアはのべ88人、計270人だった。初参加の子どもが回を重ねるごとに増えている。

② ワンデイプログラム

ワンデイプログラムは、5月からほぼ月に1回日曜日に計10回実施した。のべ参加人数は遺児137人、保護者101人、計238人だった。また、ファシリテーターの参加者はのべ120人、ファシリテーター以外のボランティアはのべ25人、計145人となった。宿泊を伴うつどいに参加できない遺児と保護者が継続して参加している。

③ ファシリテーター養成講座

ファシリテーター養成講座は、2016年6月18日から19日、2017年2月25日から26日の2回東京で開催し、51人が修了した。

(2) 神戸レインボーハウス（虹の家）のケア活動

神戸レインボーハウスのケア活動では、従来から実施しているグループタイム、つどい、偲び話しあう会（2015年度より「追悼と交流のつどい」という。）、教育プログラムの「虹の寺子屋」、ファシリテーター養成講座などを実施し、病気・災害・自死遺児とその保護者らが参加した。

大学生に成長した阪神大震災遺児や病気・災害・自死遺児は、ファシリテーターとして神戸レインボーハウスや東京のあしながレインボーハウスのプログラム、東日本大震災津波遺児支援活動にも参加し、後輩遺児たちを支えてくれた。震災遺児が成長し、新しい病気遺児や自死遺児たちが来館するようになり、ケアが遺児たちの成長や自他の幸せのための姿勢を

育むモチベーションになりつつある。

ファシリテーター養成講座は神戸レインボーハウスのボランティアの確保だけでなく、神戸レインボーハウスの理論と方法の啓発活動につながっている。

① グループタイム

グループタイムは、小学1、2年生から中学3年生のグループで毎回15人ほどの遺児と保護者10人ほど、ボランティア（ファシリテーター）12人ほどで、「家族の思い出」などのお話しの時間、鬼ごっこ、宝探し、ハンドペインティングなどを通して、遺児たちの抱える思いを自然な形で外に出してもらおうプログラムである。隔週の日曜日に年間12回実施し、病気・災害・自死遺児のべ166人、ファシリテーターのべ144人が参加した。

② つどい等の開催

● 海水浴のつどい

8月19日から21日、兵庫県家島町で開催。病気・災害・自死遺児47人、保護者8人、ファシリテーター40人、スタッフ9人、計104人が参加した。

● 保護者親睦会

12月10日に開催し、病気・災害・自死遺児16人、保護者19人、ファシリテーター12人、スタッフ4人、計46人が参加した。

● 雪あそびのつどい

3月4日から5日、兵庫県灘区六甲山町で開催。病気・災害・自死遺児22人、ファシリテーター22人、スタッフ5人、計47人が参加した。

● スリーデイ、ツーデイのつどい

6月18日から19日、神戸レインボーハウスにて開催したツーデイには、遺児26人、保護者7人、ファシリテーター12人、スタッフ9人、計46人が参加した。10月8日から10日、神戸市立自然の家にて開催したスリーデイには、遺児17人、保護者7人、ファシリテーター13人、スタッフ6人、計43人が参加した。

● 日帰りのつどい

計5回開催し、お花見や陶芸教室、乗馬、あそぼうデー（2回）などをおこなった。病気・災害・自死遺児はのべ99人、保護者のべ40人、ファシリテーター他はのべ89人、計228人が参加した。

③ 偲び話しあう会（追悼と交流のつどい）

阪神・淡路大震災遺児およびその関係者が参加する「第21回今は亡き愛する人を偲び話しあう会」を2015年度から「追悼と交流のつどい」と改称し、小規模な内容の変更もおこない、2017年1月14日に神戸レインボーハウスで実施。震災遺児家庭30人、東日本大震災遺児家庭16人、ファシリテーター・心塾生他52人、計98人が参加した。午前中は追悼セレモニーと阪神大震災遺児と東日本大震災遺児のスピーチ、午後は小グループに分かれて震災体験やその後の生活や将来のことなどについて話しあった。

④ 教育プログラム

幼少期にある遺児の教育支援活動として月2回、日曜日の11時から12時30分、学習

塾「虹の寺子屋」を13回開催した。参加者は遺児の小中学生のべ116人で、教員OB・OGや大学生のべ112人から国語と算数の個別指導を受けた。参加者からは、「解りやすい」「続けたい」などの意見が多く、教員OB・OGや大学生の皆さんも子どもたちとの時間を楽しみにしている。

⑤ ファシリテーター養成講座

2017年2月18日から19日に「ファシリテーター養成講座」を開催し12人が修了した。今後は神戸レインボーハウスのファシリテーターとしての活動を予定している。

⑥ 神戸レインボーハウス大規模修繕

竣工から満17年が経過し、経年劣化していた外壁、屋根、防水などの外装の修繕とレインボーホール、談話室、和室などの内装の改修を、2016年10月から2017年4月に行った。費用は外装修繕に約6,340万円、内装改修に約1,600万円、合計で7,940万円（いずれも税抜額）だった。

5. 広報・調査研究事業

(1) 機関紙の発行

2016年度は、第144号～148号まで計5回発行した。主な内容は次のとおりである。

- ① 144号（5月）：新理事・評議員に多数の大学学長経験者が就任しアフリカ遺児高等教育支援100年構想事業の支援を強化。「あしなが運動課」の設置により内外のあしなが運動、遺児へのサポートを強力に推進する体制が発足。国内小中学生遺児向けに異文化交流と英語学習を主体とするあしながジュニア・イングリッシュ・キャンプ（AJEC）が始動し、国内遺児支援も国際的な交流を意識した新たな段階に入った。玉井会長、吉川英治文化賞を受賞。熊本地震被災者への支援募金実施。
- ② 145号（7月）：理事・評議員会での決算報告と新理事の就任承認。「2016つどいにおいてよ」特集。「選挙年齢引き下げと高校生たちの反応」特集。全77賢人達人の紹介。100年構想第3期生紹介とウガンダ心塾での勉強合宿。
- ③ 146号（10月）：第93回学生募金の日本・アフリカ遺児支援を安倍総理も応援。TICADVIアフリカ開催とアフリカ各国首脳がコラボ・コンサート「世界がわが家」を鑑賞。「夏のつどい2016」詳報。村田治副会長、青野史寛理事、岡嶋信治名誉顧問のつどい講演要旨。
- ④ 147号（1月）：「進学仕度一時金」制度発足、新「奨学金規程」承認。100年構想フランス語圏勉強合宿終了。2017年あしながさんへの年賀状。第93回学生募金詳報、国境なき支援に学生らが挑戦。コラボ・コンサート「世界がわが家」5年の軌跡、キャサリン・ヒル前ヴァッサー大学学長と演出家ジョン・ケアード両氏の回顧寄稿。
- ⑤ 148号（3月）：故・山本孝史参議院議員半生記朗読劇「兄のランドセル」6月にNHKホールで上演。小中学生教育支援事業始動であしながジュニア・イングリッシュ・キャンプの事前研修をあしなが心塾で開催。神戸・東北追悼と交流のつどいで震災後を共に歩む。第2回賢人達人総会35人の出席で東京開催、実りある議論と展望。2016年度海外留学研修生レポート、ベトナム・フィリピン・ウガンダ各地報告。「ありがとうあしながさん、奨学生卒業礼状」特集。

また、機関紙創刊から23年を経過したのを期に作成予定の機関紙合本版は、校正の都合と、当初143号までの予定を148号までとしたことにより、6月完成の予定である。機関紙のデータベースの構築は実用化の目処が付き、目下機関紙編集室において業務試用中である。

(2) 広報活動

① ウェブサイト

本会ウェブサイトの役割は、ご支援者および一般の方々に本会の理念や活動状況について、できるだけわかりやすく、正確にそしてタイムリーにお伝えすることである。2016年度もそのことを念頭に記事の更新をおこなってきた。「年間総閲覧ページ数」は153万8,891ページ、「最高月間訪問件数」は2月期の9万2,282件で、110か国以上からアクセスがあった。日本語のみならず英語圏、仏語圏、ポルトガル語圏やアフリカ諸国など世界中で閲覧できるよう、全面リニューアルをおこなうためのプロジェクトチームを発足させ、2017年春の公開を目指して作業を進めている。

② SNS（ソーシャル・ネットワーキング・システム）

2016年度はアフリカ諸国や欧米など、海外の方々に対する本会の認知度を高めるため、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・システム）の活用を注いだ。専任の担当者置き、本会の活動内容、奨学生やインターンシップの募集情報などを中心に、Facebook、Twitter、Instagramなど利用者の多いSNSに毎日一つ以上の投稿を行い、投稿に対するコメントや質問に対して丁寧な返信を行った。その結果、Facebookページへの共感を表す「いいね」獲得数は昨年同時期の約10倍となる、10万件を達成した。

(3) 調査研究活動

① 遺児家庭の生活実態訪問聞き取り調査

全国各地で大学奨学生らが行っていた、遺児家庭への家庭訪問と聞き取り調査は2015年度から中止している。

② 高校生奨学生アンケート調査

2016年2月に高校奨学生家庭に発送した「生活状況報告の提出について」の郵送物に保護者を対象としたアンケート調査を同封し、任意で回答を求めたところ、3,263人の保護者のうち2,061人から回答（回答率63.2%）があった。筑波大学の樽川典子准教授に監修いただき、調査結果の詳細と考察について、2016年4月に記者発表を予定していたが、発表直前に熊本地震が発生したため中止となった。

6. 東日本大震災津波遺児支援事業

震災遺児や保護者が「ひとりじゃない」と感じて、前向きに生きる希望や笑顔を取り戻すために、仙台、石巻、陸前高田の各レインボーハウスでは2015年に定着した日帰りのワンデイプログラムの他に宿泊プログラムを取り入れるなど、「心のケアプログラム」の充実をめざした。震災遺

児家庭同士の出会いと交流を継続的に広げるため、ニュースレター「レインボーハウスだより」を発行し情報提供を行いつつ、困りごとや相談ごとには手紙や電話で対応した。特になかなか来館できない家庭を対象に 130 件の家庭訪問を行った。他団体の力を借り来館促進活動にも力を注いだ。2016 年はのべ 1,130 人（2015 年は 977 人）の震災遺児とその家族が交流プログラムやイベントなど（東北で 108 回開催、2015 年は 82 回）に参加した。

夏休みなどには米国と豪州での短期海外留学に震災遺児を送り出し、外国人インターン生との交流もおこなった。

阪神大震災の遺族は「震災から 3 から 4 年目がとてもつらかった」という。東北は生活復興の遅れもあり、2016 年「3.11 交流会」では悲しみや苦しみが、より深まっていると感じたが、2017 年は 7 回忌を迎え、また一段とさまざまな思いが表出されていた。「地域では時間が経ってそれぞれのペースも違って少しずつ話しづらくなっているが、ここは思いを吐き出せる」という言葉を重く受け止めた。一人ひとりの気持ちや生活状況に合わせて、子どもたちの育ちや学びを手助けする丁寧な関わりが求められている。

東北での交流プログラム参加者実績（2016 年度）

	回数	遺児	保護者
仙台レインボーハウス	40 回	304 人	137 人
石巻レインボーハウス	26 回	214 人	116 人
陸前高田レインボーハウスと岩手県	42 回	221 人	138 人
合計	108 回	739 人	391 人

(1) 心のケア活動

震災から 6 年が経過し、それぞれ子どもたちも成長してきた。つながりのある 1,843 人の内訳は未就学児 16 人、小学生 264 人、中学生 235 人、高校生 307 人、19 歳から 22 歳 488 人、23 歳以上 533 人である。彼らのニーズは年齢や家庭の経済状況、学習環境、在住するコミュニティの復興状況によって個別的であることから、年齢別のサポートプログラムが必要となっている。

① 仙台レインボーハウスでの活動（以下、「レインボーハウス」は「RH」と表記。）

主に仙台市とその周辺に在住する震災遺児家庭を対象とした「仙台ワンデイプログラム」を毎月 2 回、定期的で開催した。同プログラムは、「NPO 法人子どもグリーフサポートステーション（以下「CGSS」という。）」との合同開催。同法人が震災以外の遺児家庭らを対象に参加者を募集して、すべての死因の遺児らと保護者が一緒のプログラムをおこなった。8 月に野外でのプログラムを合同開催した。自然の中での乗馬や川遊び、そしてバーベキューでは普段とは違った良好なケアプログラムをおこなうことができた。これをきっかけに一時来館が少なくなっていた中学生の来館が増加した。

仙台 RH は震災遺児のケアセンターであることから、全国の震災遺児を対象とした交流プログラムにも力を注いだ。これまで来館が少なかった大学生、専門学校生など 18 歳以上の震災遺児を対象とした「にじ cafe」を 4 回開催、「中高生のつどい」とその

「保護者のつどい」との同時開催、夏休み期間の外国人インターン生との交流会などを実施した。

そのほかには、株式会社タイガー、キリンビバレッジバリューベンダー株式会社から「神戸からの恩返し」としてキリンビール仙台工場見学と神戸製鋼ラグビーチーム「コベルコスティーラーズ」によるラグビー教室（5月）が開催され、宮城県外からも多数の参加があった。

地域への開放と連携として、子ども支援団体を中心に地域の団体に対し仙台RHの貸出利用の幅が広がった。仙台市教育委員会の適応指導教室「杜のひろば・青葉」が月曜日から金曜日、NPO 法人アスイクが低所得世帯の中学生への放課後学習支援（週2回）、フリースクール事業（週1回）、NPO 法人仙台グリーンケア研究会（月1回）、仙台子ども食堂（月1回）、仙台育英高等学校に留学しているウガンダの学生への学習支援の場（週1回）として研修室を開放した。定期的な利用のほか、数団体が週末を中心に研修会などでスポット利用している。「災害子ども支援ネットワークみやぎ」とも繋がりを持つことができた。仙台RHは好立地のため貸出利用の相談が増えている。震災遺児が成長した後のRH活用方法を見据えながら各団体との協力関係を深めた。

また仙台RH近隣との連携をより深めるために、初めて荒町商店街の七夕飾りに参加（8月）し、商店街の人たちとの交流を図ることができた。

② 石巻レインボーハウスでの活動

主に石巻市と東松島市の震災遺児家庭がプログラムに参加して「ワンデイプログラム」と「金曜開館日」を定期的に毎月行い、宿泊プログラムを8月、12月、2月の3回実施した。11月には、昨年に続いて株式会社ポケモンの協力による交流イベントと、三谷産業株式会社と金沢美大の協力による「藍染・マーブリング教室」を2日連続で開催した。このイベントをきっかけに、それまで来館したことがなかった数世帯の震災遺児親子が新たに参加し、その後のプログラムへの継続的な参加につながった。参加者は増えたが、ファシリテーターの人数確保が課題である。

学習支援の取り組みも広げた。東北大学震災子ども支援室と連携した「しゅくだい塾」が3年目で定着。地元のプロ家庭教師のボランティアによる無料個別学習指導を新たに開始して、3人の小中学生が月2回から4回参加した。

広く地域の方々からも必要とされる場所になればと広報した結果、部屋の貸出利用も増えた。未就学児と若い母親らの3サークルがそれぞれ月1回から3回利用。若者の就職と自立を支援するNPOが毎月1回利用。また、石巻で30年以上の活動歴がある地元の女声コーラスサークルが毎週1回の練習などで利用している。

③ 陸前高田レインボーハウスと岩手県での活動

主に陸前高田市、大船渡市、気仙沼市の震災遺児家庭を対象とした「陸前高田ワンデイプログラム」を毎月1回実施した。岩手県全域と宮城県気仙沼市へ対象地域を拡大して、1泊2日のつどいを2回と12月にクリスマス会を実施した。また、釜石市、大槌町、山田町、宮古市の震災遺児家庭を対象に出張型の「山田ワンデイプログラム」

を実施した。岩手県沿岸広域振興局と「CGSS」と連携した震災遺児家庭の交流プログラムを、釜石、宮古、盛岡で共催した。また、プログラムの参加を待つだけでなく、アウトリーチ型の関わりとして、高校生世代を中心として25世帯への家庭訪問を実施した。

学習支援の面では、前年度に石巻で実施した東北大学Sチル主催の「しゅくだい塾」を陸前高田レインボーハウスでも開催した。

ファシリテーター養成講座を盛岡市と陸前高田レインボーハウスで実施し、陸前高田ではフィールドワークも組み入れ、参加者に地域の現状を感じる機会を設けた。大船渡保健福祉環境センターとの共催で、ひとり親家庭支援者養成連続講座を実施した。

地域との関わりを深める試みとして、レインボーハウスについて地域住民を対象とした見学会を開催した。地元紙の取材もあり、地域の方に建物を知ってもらうと同時に、あしなが育英会の取り組みをお伝えする機会となった。

地域連携では、陸前高田市子ども支援ネットワーク会議や気仙沼地区精神保健福祉担当者会議など、子ども支援に関わる地元機関の会議に出席し、情報収集に努めた。

陸前高田RHの貸出は、「CGSS」、子育て支援「りく mama+」「きらりんきっず」、復興支援「NPO 法人まあむたかた」「NPO 法人パクト」など、平日を中心に多数の団体が利用した。また、陸前高田市の小学校・学童クラブの二次避難所に指定されている。

④ 東北と神戸の震災遺児家庭同士の交流

2017年1月に神戸RHでの「追悼と交流のつどい」に、東北から高校生以上の震災遺児とその保護者が参加した。3月には仙台・石巻・陸前高田の各RHと岩手県山田町の4か所で、「東北と神戸との交流のつどい」を実施した。3月11日には同じ4会場で、墓参りや追悼行事の合間にいつでも立ち寄れるように、神戸震災遺児とその保護者、ファシリテーター、職員で東日本大震災遺児家庭の来館を受け入れた。

(2) ファシリテーター養成

ファシリテーター養成講座を「CGSS」と連携して開催した。仙台では仙台市内の大学に細かく広報し学生の参加を呼びかけ、6月に18人、2月に17人が各々修了した。また10月石巻で4人が修了。岩手ではファシリテーター研修会(4月)が盛岡と仙台RHを会場に2日コースで開催1人が参加。ファシリテーター養成講座は盛岡(5月)9名。陸前高田(9月)では1泊2日の宿泊形式でおこない22人が受講した。ファシリテーターフォローアップ研修を10月、元ダギーセンタートレーニングディレクターのシンシア・ホワイト氏を招聘し仙台RHで開催した。受講者は17人で東北各地から参加しケアのスキルアップを図った。合わせて職員を対象に「セルフケア研修」を実施した。

7. 海外遺児支援事業

(1) アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想

一期生 10 人、二期生 26 人に続き、2016 年度は 35 か国を対象に募集を行い三期生は 32 か国 32 人の採用となった。ウガンダ、セネガルでの勉強合宿を実施し、学業面でのスコア向上のみならず、課題解決活動やボランティア活動などもプログラムに取り入れ始めた。

100 年構想事業では、将来母国アフリカに戻りリーダーとして貢献する人材育成を通してアフリカの発展を支援・応援していく。「あしながのつどい」への参加の他、アフリカでのインターンシップ、アフリカを考える「あしなが卒業報告書」提出などの義務事項を検討し、これらを含めて「アフリカ 100 年構想生」の規程、規則、細則（各地域毎）、リターンポリシーなどを定めた。各地域により事情が大きく異なることから、各種の学生支援ポリシー、対応プロセスなども策定した。

(2) 賢人達人会議

① 賢人達人会とは

賢人達人会は「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想」（以下、「100 年構想」という。）プロジェクトを支えるための機関であり、いわば応援団である。構成メンバーである賢人達人は、世界中から各国日本大使館の推薦等により、その国を代表する知識と見識の持ち主や国民の尊敬と人気を集める方々を選んでご就任いただいている。海外ではまだ知名度が低い本会が活動するにあたり、著名な賢人達人メンバーに「100 年構想」に賛同いただいているという事実が本会の信用を支えている。また、本プロジェクトのあらゆる局面、「学生の募集、教育、大学とのマッチング、受験、奨学金の獲得、卒業後の就職等」において、賢人達人メンバーの知識と経験と人脈を生かしてのアドバイス及びサポートを大いに期待するものである。

② 新賢人達人の就任状況

2016 年度には新たに 17 人の賢人達人に就任いただき、2017 年 3 月末までにメンバーは合計 86 人（34 か国）に至っている。特に、2016 年度は意識的に「アフリカ諸国からの賢人達人の獲得」に努めた。「100 年構想」が 3 年目にさしかかった今、1 期生の卒業が間近となっており、卒業後の進路対策が急務である。本構想の目的は「優秀な遺児が教育を受けた後、母国の建設に貢献するリーダーとなる」ことであるから、彼らの卒業にあたって就職先や進路へのサポートやアドバイスをいただけるアフリカ諸国の賢人達人の存在が重要度を増しているためである。結果として 10 人以上のアフリカ諸国出身の方にご就任いただくことができた。その内訳は、元ニジェール首相で NEPAD 総裁のイブラヒム・マヤキ氏やウガンダの国会議員ジェームス・ボリバ・ババ氏などの政府関係者や、ガーナ大学総長のエベネゼ・オウス氏やケニアのモイ大学総長のミリアム・ウェレ女史のような教育関係者、国民的歌姫である南アフリカのイボンヌ・チャカチャカ女史やセネガルのクンバ・ガウロ女史のような著名アーティストなど多岐に亘っており、今後、卒業時のご協力のみならず、現地でのファンドレイジン

グに際しても、心強い限りである。

③ 第2回「賢人達人会」総会

2015年6月に米国のワシントンD.C.で開催した第1回に続き、2017年2月28日に第2回総会を、初めて本拠地の東京において開催した。第1回の17人の約2倍となる35人もの方（内3人はレセプションのみの参加）が18か国から参加くださった。第2回総会では、賢人達人メンバーから「100年構想」プロジェクトに対して、「もう一步踏み込んだ具体的なご提案やサポートを引き出す」ことを目標としていたところ、結果としては、期待をはるかに上回る実に有用かつ多種多様な提案をいただくことができた。

④ 総会後のフォロー

第2回総会後は、議事録を作成して全メンバーに送付すると共に、総会でのメンバーからの「提案リスト」を作成し、その対応状況及び達成状況を細かくチェックする体制作りに務めている。さらに総会とは別に、総会中及び総会後に賢人達人メンバーから、国連事務総長への紹介、国際的な会議（研修）への100年構想生の招待など、個々にいくつかのご提案や働きかけがあった。これらは総会において賢人達人メンバーと本会との間に深い理解と信頼関係が生まれたことの現れであり、今後さらに様々な協力や相乗効果を生むことが期待できる。なお、第2回総会の大きな成果を踏まえ、2017年度も引き続き第3回総会を東京で開催することが決定された。

(3) 海外活動拠点事業

① 米国法人「ASHINAGA, INC」

現地職員2人を採用のうえ、現地の大学事情に知識の深い専門家からのアドバイスを得ながら、大学関係構築と学生支援を大きな柱に活動を行った。

大学関係構築では、本会の活動、学生候補の連絡、奨学金支給の依頼などを大学の入学課に働きかけた。結果、2017年9月入学予定の第三期奨学金が世界屈指のプリンストン大学と、歴史あるノートルダム大学のフルスカラシップ（全額授業料無料）を獲得した。このように、大学からの奨学金を受ける学生が年々増加し、大学との連携も着々と進展している。これまでに、カナダを含め北米で16大学16人が入学を果たした。

一方、学生支援では学生と密接なコミュニケーションを取り、学業面での成功のみならず、「つどい」やアフリカでのインターンシップなどの提供を通し、将来母国に貢献する人材教育をねらった。夏と冬に実施したオリエンテーション及び「つどい」では、現地の賢人達人メンバーのご紹介にて講演会開催、地元ボランティア活動への参加、各自の目標報告などのリーダー育成プログラムを提供した。全ての支援スキームが構築されたばかりだが、試行錯誤のなかで活動を推し進めた。

以上の活動のみならず、米国での賢人達人メンバーや人脈の強化をはかり、学生に対しより良い機会と教育を提供する基盤構築が固まりつつある。

② あしながセネガル

セネガル事務所はこれまで仮登録団体として活動してきたが、2016年12月にセネガル政府から最終承認が下り、改めて現地非営利団体「あしながセネガル」としての活動を開始した。

フランス語圏第3期生の募集・採用活動の対象国は、昨年度の9か国から13か国に拡大した。合計346人の学生から応募があり、書類選考と筆記・面接試験を経て、11か国から11人の学生を採用した。フランス語圏から採用した11人の学生のうち2人はウガンダでの勉強合宿に、9人はセネガルでの勉強合宿に参加した。7月上旬から12月上旬までの5か月に亘って行われたセネガル勉強合宿では、世界中から集まった20人のインターン生からの指導のもと、受験のための進路相談やリーダーシップ養成プログラム、学力向上プログラムなどを実施した。

9人のうち1人はすでにカナダのモントリオール大学に進学が決まり、1月から大学での学習を開始している。その他の8人は合宿を終えて母国に帰った後にフランスやベルギーの学校への出願を終え、4月から6月に発表される受験結果を待ちながら、それぞれの専攻予定分野の学習を進めている。

2016年度から新たにセネガル現地での奨学金事業を二つ開始した。一つは高校を卒業した学生対象とした奨学金（高等教育奨学金）、もう一つは小学生を対象とした奨学金（初等教育奨学金）である。高等教育奨学金では2人の学生を、初等教育奨学金では10人の学生をそれぞれ採用した。3月には初等教育奨学金を受けている小学生を対象に、セネガルで初めてのケアプログラムも開始した。

③ あしながUK

2017年2月、正式に団体登録された。現地職員3人と本部職員1人で、現在マンチェスター大学、SOAS、ブリストル大学をはじめ10大学14人の学生を支援・指導している。来年度第三期生では、世界ランク8位とされるインペリアル大学に入学決定しエンジニアリングを学ぶ学生がいる。

あしながUK事務所は、UKで学ぶ学生の学業面での成功のみならず、将来母国に貢献するリーダーとなる人材育成を行う。また大学との関係構築による授業料減免、UK内でのあしながの認知度を向上させ、各団体・企業との強力なネットワークを構築していくことも大きな責務である。

来年度はUKでの賢人達人メンバーや日本大使館の協力を得て、大学との連携はじめ活発な活動を展開していきたい。

④ あしながフランス

あしながフランスは2016年12月に、NPOとして正式に登録された。現地職員2人とフルタイムインターン1人で、大学支援プロフェッショナルの政府機関キャンパス・フランスと連携提携し活動している。現在フランスの大学へ通う5人の学生、オランダの大学へ通う1人の学生を支援・指導している。到着時のオリエンテーションから始まり、「つどい」の開催、エモーショナルサポートを通して、学業面の成功のみなら

ず将来母国に貢献するリーダーとなる人材育成を行う（他、あしなが UK と同様の任務）。

キャンパス・フランスはフランス教育システムの専門家であり、またフランスで学ぶアフリカ人留学生支援のエキスパートである。彼らとのパートナーシップを効果的に活用し、採用教育を担当しているあしながセネガル側としっかりと協働する体制をつくっていききたい。

2017 年度は新たに 3 期生学生を迎え、全 17 人の学生を支援する予定である。学生支援・指導の他、大学との関係構築、各団体・企業とのネットワークの構築、あしながの認知度の向上のための活動も強化していく。

(4) あしながウガンダ事業

① レインボーハウス（遺児の心のケアと寺子屋教室）

本年度は、中学生高校生を対象とした奨学金を新たに設立。初年度は中学 1 年生から高校 2 年生まで 27 人を採用した。既存のリーダー育成奨学金では、小学校卒業試験において際立って好成績を修めた 1 名を採用。同奨学金における卒業生では、高校卒業試験を受けた 4 名のうち 2 名が国内トップ成績をおさめた 200 人のうちに入り、全国紙に名前が載る快挙となった。また 2016 年 12 月には、従来のカルチュラル・フェスティバルからコミュニティへの貢献へと趣向を変えたイベントを開催。入場者を限定せず地域全体に門を開き、のべ 500 人以上が来場、近年事業内容を拡大する「あしながウガンダ」の活動が、ナンサナの市民へ浸透するきっかけとなった。

そして新たな活動として保護者を中心に構成されるクラフトクラブを新設。2016 年 11 月から、週 3 回レインボーハウスの 1 室を使って、アフリカ伝統の布でクラフト製品を制作販売している。保護者へのスキル教育を通して、保護者が自立して収入を得る手助けをし、子どもへの教育環境向上へ寄与することを目的としている。

② 心塾（100 年構想事業合宿の運営とリクルート）

渡航前合宿には 2 期生 26 人中 24 人、ウガンダ留学候補生と合わせて 28 人が参加、インターン生 7 人が指導に当たった。初めて仏語圏も合わせて 2 期生全員が集う機会ともなり、あしなが奨学生としての結束が生まれた。3 期生は 35 か国を対象に募集を行い、1,335 通の応募があった。そのうちウガンダ合宿で 23 人を採用、ウガンダ留学候補生 2 人と合わせて 25 人の学生を対象に勉強合宿を実施した。前期後期併せて 20 人のインターン生らが、合宿で指導に当たった。学業面では英語力を測る IELTS 試験にほとんどが 6.5 以上をスコアすることができた。またソーラーパネルの設置、地域の掃除や地方訪問を通しての課題解決など行動を通しての学びを深めるプログラムを増やした。現時点で 23 人中 5 人の奨学金受給も確定している。10 月には 4 期生の出願を開始、4 か国で試験的に現地広報担当官を採用、新聞やラジオなどでの広報に力を入れた。

(5) 海外遺児の日本留学支援

2006年度から留学生の受け入れを開始し、2016年度までに68人の海外遺児を受け入れた。留学生らは、母国や地域発展に寄与するリーダーを目指し、各々の大学や高校で学び、切磋琢磨している。留学先の大学は、早稲田大、上智大、明治大、関西学院大、同志社大、関西大、広島大に加え、2016年度からは、筑波大、立命館大、山梨学院大も加わり、ウガンダ以外にもマラウイ、ソマリア、ザンビア、ケニアなどのアフリカ諸国からも留学生を受け入れた。2015年度に、1年間の留学生別科を修了したベトナム留学生が関西大学経済学部（4年制）に合格した。彼らは、卒業後、日本企業に就職する者、大学院に進学する者と様々だが、将来は、母国の発展のために日本留学での経験を活かしてくれることだろう。

また、2014年度より行っている仙台育英学園高等学校への留学は2016年度、セネガル、ウガンダから2人が入学し、日本の大学への進学を目指し努力している。高校留学生第1期生の2名は、2017年春、高校を卒業し大学へ進学した。学生の選択肢を増やすために、新たな大学・高校との協定を増やすアプローチも積極的に行っており、東京国際大や同志社女子短期大などとも協定を締結した。

2017年度は、さらに慶應大、横浜国立大、APU（アジア太平洋立命館大）など、地方大や様々なプログラムを推進する大学への進学も決定している。進学後は、インターンシップを通じたキャリア構築支援や、日本語教育などにも力を入れ、さらにあしなが運動への積極的な参加を促していく予定である。

(6) コラボ・コンサート「世界がわが家」公演

2016年8月にウガンダ・カンパラ市のンデレ・センターで開催された。1,000人収容の野外劇場を約2,000人も観客が埋め尽くし、感動と喜びの祝祭となって大成功をおさめた。公演前後のレセプションには、在ウガンダの主要各国大使はじめ、企業・団体・メディアからも参集いただき、「あしながアフリカ遺児高等教育支援100年構想」に応援頂いた。また勉強合宿中の100年構想学生等が「こころざし」を力強くスピーチした。全く異なる環境に育つ若者たち（震災遺児や被災者による和太鼓演奏・米ヴァッサー大学生のコーラス、ウガンダエイズ遺児の歌と踊り）の3か国共同コラボは、2014年3月の仙台・東京公演から始まり、2015年6月米国NY、ワシントンD.C.、東京、そして2016年8月にはあしながウガンダ寺子屋キッズの故郷ウガンダで熱狂の凱旋公演を終えた。

これに引き続き、ウガンダキッズ達はケニアで開かれたTICAD VIの日本政府主催のレセプションに招待され躍動感あふれる素晴らしいダンスを披露した。列席した全アフリカ元首等及び安倍総理一行を魅了し、あしながの活動をしっかりとアピールする機会となった。

8. 募金事業

2016年度の寄付総額は42億952万4,053円で、2015年度比6%の減少となった。寄付件数は34万6,133件で2015年度比4%の減少となった。1988年からの寄付累計額は724億5,032万1,029円（633万5,623件）となった。

(1) あしながさん寄付

継続寄付をいただく「あしながさん寄付」は、2016年度中に新たに1,342人の申込みをいただいた。あしなが学生募金による寄付減少も影響し、寄付額は12億5,800万9,042円で、前年度に比し21%の減少だった。寄付件数は24万6,488件で4.1%の減少となった。

(2) 虹のかけはし会員

神戸レインボーハウスの建物の維持管理費、運営資金を継続的に支援する「虹のかけはし会員」には新たに289人の申込みがあった。寄付額は大口の寄付があったため1億1,953万6,206円となったものの、前年比16%の減少となった。寄付件数は4万3,860件で3.2%減少した。なお、2018年度より「虹のかけはし会員」、「学生寮あしなが心塾支援口」、「あしながレインボーハウス募金」の3つの口座を一本化し、「あしなが心塾レインボーハウス」と「神戸虹の心塾レインボーハウス」の運営費とする予定。

(3) 一般寄付

奨学金や心のケア活動など本会の事業全般に対しての寄付は、2015年度に比べ件数は1万9,014件で9.1%減少したが、昨年度に比べ遺贈など高額寄付の増加により寄付額は152%と大幅な増加で、15億2,360万8,106円となった。

(4) あしなが東日本大震災遺児支援募金

2014年度に設置した「あしなが東日本大震災遺児支援募金」への2016年度の寄付額は4億7,006万8,046円(3万2,578件)で、特別一時金などに充てた「東日本大地震・津波遺児募金」を合わせた2011年3月からの累計は81億5,052万1,070円(36万5,965件)となった。

(5) 寄付実績

	2016年度			累計	
	金額(円)	前年比	振込件数	金額(円)	振込件数
あしながさん ^(※1)	1,258,009,042	79.11%	246,488	26,819,021,659	4,671,457
一般寄付 ^(※2)	1,523,608,106	152.38%	19,014	21,464,824,425	329,342
虹のかけはし	119,536,206	84.26%	43,860	2,372,971,842	729,593
あしながレインボークラス募金	1,063,344	40.56%	146	71,213,945	5,298
学生寮あしなが心塾	1,673,547	52.63%	138	1,099,654,526	33,783
がん遺児	2,479,692	28.39%	154	521,465,540	10,028
海外遺児心の支援 ^(※3)	760,714,719	65.11%	278	3,624,377,819	22,005
ウガンダかけはし	6,102,111	54.43%	832	144,063,968	16,070
アフリカ遺児教育支援 ^(※4)	66,269,240	209.11%	2,645	197,242,067	14,726
東日本大地震・津波遺児	470,068,046	90.96%	32,578	8,150,521,070	365,965
東北レインボークラス募金	0	0.00%	0	4,981,676,240	49,212
あしなが虹の家建設	0	-	0	840,814,366	40,568
インド洋大津波遺児募金	0	-	0	22,688,115	1,984
震災遺児	0	-	0	674,169,107	14,039
神戸虹の家建設	0	-	0	1,451,818,260	30,816
医師口	0	-	0	5,945,900	478
その他	0	-	0	7,852,180	259
合計	4,209,524,053	94.08%	346,133	72,450,321,029	6,335,623

注1 (※)には以下の金額を含む

(※1) 第93回あしなが学生募金事務局 41,681,574円

(※2) 第92回あしなが学生募金事務局 46,321,842円

熊本地震支援募金 29,279,949円

(※3) 指定財産(固定資産) 122,576,252円

(※4) 第93回あしなが学生募金事務局 41,681,573円

奨学生現況表

2017年3月31日現在

	高等学校・高等専門学校									高校 総計	専修 各種	大学	大 学院	総合計
	全日制			定時制・通信制			高等専門学校							
	公立	私立	合計	公立	私立	合計	公立	私立	合計					
北海道	76	47	123	8	10	18	0	1	1	142	28	67	1	238
青森	60	25	85	4	1	5	0	0	0	90	11	33	0	134
岩手	52	8	60	0	2	2	0	2	2	64	11	26	0	101
宮城	45	45	90	8	4	12	0	0	0	102	15	47	0	164
秋田	29	3	32	2	0	2	0	0	0	34	3	12	1	50
山形	35	31	66	4	0	4	0	0	0	70	13	13	0	96
福島	27	17	44	0	1	1	0	0	0	45	11	30	2	88
茨城	34	18	52	1	4	5	0	0	0	57	15	35	0	107
栃木	20	16	36	3	2	5	0	0	0	41	6	20	1	68
群馬	28	8	36	1	3	4	0	0	0	40	5	22	0	67
埼玉	41	28	69	2	5	7	0	1	1	77	16	56	0	149
千葉	42	24	66	2	6	8	0	0	0	74	18	48	1	141
東京	64	70	134	12	13	25	0	0	0	159	21	131	5	316
神奈川	48	38	86	4	7	11	0	0	0	97	15	68	0	180
新潟	30	20	50	1	3	4	0	0	0	54	10	32	0	96
富山	8	7	15	0	0	0	0	0	0	15	3	10	0	28
石川	12	6	18	0	0	0	0	0	0	18	5	10	0	33
福井	9	3	12	0	2	2	0	0	0	14	2	9	0	25
山梨	15	14	29	0	1	1	0	0	0	30	6	20	0	56
長野	26	10	36	1	2	3	0	0	0	39	12	11	0	62
岐阜	27	20	47	7	6	13	0	0	0	60	3	29	0	92
静岡	32	26	58	8	4	12	0	0	0	70	11	41	0	122
愛知	45	32	77	6	5	11	0	0	0	88	11	55	0	154
三重	25	5	30	0	1	1	0	0	0	31	4	10	0	45
滋賀	14	8	22	0	2	2	0	0	0	24	2	14	2	42
京都	17	17	34	1	2	3	0	0	0	37	11	45	1	94
大阪	102	112	214	4	22	26	0	0	0	240	45	133	0	418
兵庫	82	65	147	6	10	16	1	0	1	164	24	81	1	270
奈良	13	6	19	0	1	1	0	0	0	20	4	14	0	38
和歌山	13	2	15	1	0	1	0	0	0	16	5	8	0	29
鳥取	7	2	9	2	0	2	0	0	0	11	2	6	0	19
島根	15	5	20	1	1	2	0	0	0	22	6	12	0	40
岡山	33	9	42	6	1	7	0	0	0	49	9	15	1	74
広島	48	23	71	0	7	7	0	0	0	78	14	37	0	129
山口	17	11	28	0	0	0	0	0	0	28	8	17	0	53
徳島	10	0	10	1	0	1	0	0	0	11	1	3	0	15
香川	9	4	13	0	0	0	0	0	0	13	6	10	1	30
愛媛	32	16	48	3	1	4	0	0	0	52	10	25	0	87
高知	17	5	22	0	1	1	0	0	0	23	7	7	0	37
福岡	56	71	127	3	10	13	0	0	0	140	22	65	1	228
佐賀	31	13	44	0	0	0	0	0	0	44	8	8	0	60
長崎	53	38	91	0	2	2	0	0	0	93	15	26	0	134
熊本	35	19	54	1	4	5	0	0	0	59	7	22	0	88
大分	20	16	36	1	0	1	0	0	0	37	6	11	0	54
宮崎	36	26	62	0	1	1	0	0	0	63	11	15	0	89
鹿児島	64	50	114	1	2	3	0	0	0	117	15	27	0	159
沖縄	52	7	59	2	3	5	0	0	0	64	14	40	1	119
合計	1606	1046	2652	107	152	259	1	4	5	2916	507	1476	19	4918
休停止	6	2	8	8	2	10	0	0	0	18	6	37	0	61
総合計	1612	1048	2660	115	154	269	1	4	5	2934	513	1513	19	4979

貸与回収台帳

2017年3月31日現在

2016年4月～2017年3月

一般貸与	繰越		貸与額(当月)		合計 a	
	年度	総累計	件数	金額	年度	総累計
高校	1,173,925,000	26,845,020,000	1	90,000	1,174,015,000	26,845,110,000
大学	883,390,000	14,035,360,000	1	120,000	883,510,000	14,035,480,000
専・各	248,680,000	2,032,040,000	1	120,000	248,800,000	2,032,160,000
大学院	18,720,000	282,240,000	0	0	18,720,000	282,240,000
合計	2,324,715,000	43,194,660,000	3	330,000	2,325,045,000	43,194,990,000

オンコ貸与・給付	繰越		貸与額(当月)		合計 b	
	年度	総累計	件数	金額	年度	総累計
貸与額	7,200,000	246,675,000	0	0	7,200,000	246,675,000
給付額	7,200,000	246,675,000	0	0	7,200,000	246,675,000
合計	14,400,000	493,350,000	0	0	14,400,000	493,350,000

貸与合計(一般・オンコ)	繰越		貸与額(当月)		合計A(a+b)	
	年度	総累計	件数	金額	年度	総累計
高校	1,173,925,000	26,845,020,000	1	90,000	1,174,015,000	26,845,110,000
大学	890,590,000	14,280,535,000	1	120,000	890,710,000	14,280,655,000
専・各	248,680,000	2,033,240,000	1	120,000	248,800,000	2,033,360,000
大学院	18,720,000	282,540,000	0	0	18,720,000	282,540,000
合計	2,331,915,000	43,441,335,000	3	330,000	2,332,245,000	43,441,665,000

返還	繰越		返還額(当月)		合計B	
	年度	総累計	件数	金額	年度	総累計
高校	959,655,427	12,023,414,418	7,909	60,180,500	1,019,835,927	12,083,594,918
大学	472,245,278	5,472,758,135	2,394	34,458,600	506,703,878	5,507,216,735
専・各	70,098,125	630,809,441	586	4,298,400	74,396,525	635,107,841
大学院	8,646,600	73,835,600	50	563,000	9,209,600	74,398,600
合計	1,510,645,430	18,200,817,594	10,939	99,500,500	1,610,145,930	18,300,318,094

返還免除	繰越				免除額(当月)		合計C				貸与残高(A-B-C)	
	年度		総累計		免除額(当月)		年度		総累計		貸与残高(A-B-C)	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	年度	総累計
高校	27	18,046,423	290	191,142,314	0	0	27	18,046,423	290	191,142,314	136,132,650	14,570,372,768
大学	14	16,911,646	63	85,426,831	0	0	14	16,911,646	63	85,426,831	367,094,476	8,688,011,434
専・各	4	2,764,000	25	21,349,000	0	0	4	2,764,000	25	21,349,000	171,639,475	1,376,903,159
大学院	2	3,544,000	3	5,384,000	0	0	2	3,544,000	3	5,384,000	5,966,400	202,757,400
合計	47	41,266,069	381	303,302,145	0	0	47	41,266,069	381	303,302,145	680,833,001	24,838,044,761

返還率	年度返還率				総返還率			
	要返還額	返還額	滞納額	返還率	要返還額	返還額	滞納額	返還率
高校	1,118,948,490	1,019,835,927	99,112,563	91.14%	12,499,769,670	12,083,594,918	416,174,752	96.67%
大学	528,228,006	506,703,877	21,524,129	95.93%	5,587,715,848	5,507,216,735	80,499,113	98.56%
専・各	79,594,652	74,396,525	5,198,127	93.47%	655,906,081	635,107,841	20,798,240	96.83%
大学院	9,581,600	9,209,600	372,000	96.12%	75,080,600	74,398,600	682,000	99.09%
合計	1,736,352,748	1,610,145,929	126,206,819	92.73%	18,818,472,199	18,300,318,094	518,154,105	97.25%

2016年4月～2017年3月

オンコ・草間 貸与・給付 内訳		繰越		貸与額(当月)		合計A	
		年度	総累計	件数	金額	年度	総累計
貸与	大 学	5,700,000	245,175,000	0	0	5,700,000	245,175,000
	専・各	1,200,000	1,200,000	0	0	1,200,000	1,200,000
	大学院	600,000	300,000	0	0	600,000	300,000
	計	7,500,000	246,675,000	0	0	7,500,000	246,675,000
給付	大 学	5,700,000	245,175,000	0	0	5,700,000	245,175,000
	専・各	1,200,000	1,200,000	0	0	1,200,000	1,200,000
	大学院	600,000	300,000	0	0	600,000	300,000
	計	7,500,000	246,675,000	0	0	7,500,000	246,675,000
合計	大 学	11,400,000	490,350,000	0	0	11,400,000	490,350,000
	専・各	2,400,000	2,400,000	0	0	2,400,000	2,400,000
	大学院	600,000	600,000	0	0	600,000	600,000
	合計	14,400,000	493,350,000	0	0	14,400,000	493,350,000